

2014年度受託研究概要報告

かすがプラザ「良好な景観の形成と娯楽性の向上」

研究メンバー

廣中 薫 デザイン学部ビジュアルデザイン学科准教授

委託者

株式会社OMこうべ

研究概要

本研究は、成長期を過ぎた日本の時代と共に、地域の人口減少と空き店舗、施設の老朽化などを抱える商業施設「かすがプラザ」を、新たなアート&デザインの視点から再考し、楽しく暖かく豊かで元気な街へ／新たな空間に変化させ、再生することを目的とする。

具体的には、

- ① 商業施設での調査アンケートと聞き取り。(街への意識調査・デザイン志向の確認。)
- ② 春日台幼稚園での校庭ワークショップ。(デザイン志向の確認)
- ③ 冬のセール用、視覚デザイン・巨大で動くダンサー人形「エアー・ダンサー／デザイン制作」(5体)／街の娯楽性提案。
- ④ 巨大壁画制作。／施設内の裏口から通ずる暗い道・駐車場への通りへ、楽しいモチーフの壁画をプラスすることで、明るい安全なイメージへと変容。／大きな高低階段差をも有する広場空間を伴う壁には、遠くから眺められるダイナミックな色面構成、空間を新鮮に楽しく元気に変化する作画で壁画制作。／(今迄は全く住民から意識されていなかった、街vs.外部通りを繋ぐ外部人間を瞬時に取り込む強いサイン力ある壁面／活性化のキーとなる壁面) 外部車道と繋がり・遠くへも訴えられる長距離の空間を伴う壁へは、より遠くから目立つ様な「視覚伝達・サイン的な作画で壁画制作」

「かすがプラザ」存在感をアピールした壁画を制作した。



研究成果

背景として：近年、日本の「空き家」が社会問題ともなり、閑静な住宅地もより深刻な「空き家・寂れ」問題が表面化している。この神戸郊外の住宅地「春日台」中心に位置する商業施設「かすがプラザ」も同様に、より住民の高齢化・人口減少と共に施設内にも空き店舗が増え、活気薄い環境へと進んでいる。しかし住民はあまり違和感がないまま、若い共働き世代とは大きく見解と意向が分かれ、街を想う未来図も異なってきた。まさにこの時期は転機となる為に、本研究から地域を客観的に捉えることで、新たな仕掛けからの活性化の考案と実践は不可欠に思えた。住民が最初は違和感あっても少しずつ自ら尊い環境と感じられる様に「施設を新たに実体験する楽しさ」を考案し実行した。

具体的には、こちらからの街へのアプローチとして、

- ／①「壁画制作は全て下絵状況」であること。
- ②「住民に、主役となるメイン部分を簡単に描き入れてもらうこと」により、③「個々の空間は完成となる」／制作システムを考案。

『住民たち自らメインでの「かけがえのない街づくり」となる様にサポート』（住民参加型）

全体サポートしたゼミ生達自体、街を想い、リサーチ・実際やりとり・反省会等を何度も反復していくうちに、「街への貢献の気持ち、そして愛着」迄も芽生え、その先を想い・共に考えることで、だんだん無駄のないポジティブな作業となり、『地域へ共存出来るプロジェクトチームへ』と育ち、自然な協働・創造活動となった。／壁画の実作業は真冬がメイン活動時期ともなっていたが、寒さの中だからこそ、手順・工夫が改善・更新され、ワークショップ自体それぞれ学生の個性を活かしながら対応出来るようにもなり、『多様な方向から、街と関わる実践の場』となった。

